

令和5年度(2023年度)第35号

特別支援学校における経験の浅い教員の資質能力の育成に向けた研究  
～学校における人材育成の取組を支えるために～【追補版】

令和6年度(2024年度)

特別支援学校教員スタート・プログラム(試案)の  
活用、検証の取組

北海道立特別支援教育センター

Hokkaido Special Needs Education Center

## ま え が き

北海道教委育委員会（以下、「道教委」という。）が令和５年３月に改訂した「北海道における教員育成指標」では、「求める教員像」や「キーとなる資質能力」について、キャリアステージ別の４つの段階で育成指標を設定しており、道教委では、これらの指標を関係者間で共有しながら、教員等の養成・採用・研修の一体的な充実に向けた取組を積極的に推進しています。

学校における人材育成、研修の在り方については、独立行政法人教職員支援機構が令和６年４月に発行した「『研修観の転換』に向けたNITSからの提案（第一次）」において、研修全体の「質」の向上や「探究型」研修の開発など、教師の新たな学びに向けた取組の在り方について提案されているほか、令和７年２月の文部科学省の通知「教育公務員特例法に基づく公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針の改正について」において、教員等の継続的かつ効果的な資質の向上を図るためには、日常的な校内研修等の充実や、限られた時間や資源の中で教員等の多忙化にも配慮した効果的・効率的な実施などの事項を踏まえた校内の研修体制の整備が重要であることが示されています。

当センターにおいては、昨年度、「特別支援学校における経験の浅い教員の資質能力の育成に向けた研究～学校における人材育成の取組を支えるために～」を主題とし、自閉症・情緒障がい教育室を中心に、経験の浅い教員の資質能力の向上と校内研修の効果的・効率的な実施を目指した研究を行いました。そして、研究の成果を研究紀要第35号にまとめるとともに、「特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）」（以下、「プログラム」という。）を作成し、本道の特別支援学校をはじめ、皆様に活用していただけるよう当センターWebページにて公開しています。

今年度は、プログラムの学校現場における活用の普及と促進に向け、特別支援学校においてプログラムを活用するとともに、その有効性を検証する取組を行い、令和５年度重点研究の追補版としてまとめました。

本取組の推進に当たっては、北海道美唄養護学校と北海道余市養護学校しりべし学園分校の２校に御協力をいただきました。２校には、実際に初任段階教員研修の学校計画研修においてプログラムを活用いただくとともに、特セン所員による研修の視察や事後の協議などに御協力いただきました。

本プログラムは、研修観の転換や新たな教師の学びの姿の実現を目指す中で、各学校における初任段階研修のみならず、校内研修などの各学校における人材育成に向けた取組を後押しするものとなると考えています。ぜひ、各学校の実践や研究・研修活動に御活用いただき、その成果や当センターの取組への忌憚なき御意見をお寄せいただければ幸いに存じます。

最後に、本取組の推進に当たり御助言・御協力をいただきました、協力校及び関係者の皆様に厚く御礼申し上げ、発行に当たっての御挨拶といたします。

令和７年（２０２５年）３月

北海道立特別支援教育センター所長 柏 木 拓 也

「特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）の活用、検証の取組」

日小田 泰昭      山口 智也

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 取組の経緯 .....                           | 1  |
| 1 令和5年度の取組 .....                      | 1  |
| 2 令和6年度の取組 .....                      | 1  |
| 取組の目的と方法 .....                        | 2  |
| 1 本取組の目的 .....                        | 2  |
| 2 方法 .....                            | 2  |
| 特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）の活用の成果と課題 ..... | 5  |
| 1 学校計画研修の計画段階における活用 .....             | 5  |
| 2 研修の効率的な実施 .....                     | 8  |
| 3 研修の効果を高めるための工夫 .....                | 10 |
| 4 その他に見られた効果 .....                    | 12 |
| 今後の取組の展望 .....                        | 14 |
| 1 研修方法の更なる工夫 .....                    | 14 |
| 2 教員の資質能力の育成に向けたプログラムの活用の促進 .....     | 14 |
| 外部協力者 .....                           | 16 |

## 取組の経緯

### 1 令和5年度の研究

令和5年度の「特別支援学校における経験の浅い教員の資質能力の育成に向けた研究～学校における人材育成の取組を支えるために～」は、経験の浅い教員の資質能力の向上と校内研修の効果的・効率的な実施を目指し、特別支援学校と北海道立特別支援教育センター（以下、「特セン」という。）が連携・協力して校内研修の取組を充実させ、人材育成を図ることを目的として推進した。

本研究においては、学校における経験の浅い教員の資質能力の向上を図る取組について、初任段階教員研修（1年次）の学校計画研修（以下、「学校計画研修」という。）に着目し、研修の内容の充実を図り効果を高めることができるよう、学校計画研修の実態やニーズを把握・分析し、学校現場で活用できる研修プログラム「特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）」（以下、「プログラム」という。）を作成することとした。

学校計画研修の実態やニーズについての把握・分析においては、初任段階教員（1年次、2年次）と指導教諭、学校計画研修の担当部署を対象に、学校における初任段階教員研修に関するアンケート調査を行った。

また、初任段階教員（1年次）が複数所属する特別支援学校2校を研究協力校とし、学校計画研修の計画や取組状況についての情報提供や、試作した研修資料（スライド）を活用した研修の実施、その感想やプログラムの内容に関する意見・要望の聞き取りなどの協力を得た。

これらのアンケート調査や研究協力校から得られた内容と、教員育成指標や学校計画研修の実施要項等に示される研修の内容などを基に、各学校における学校計画研修の充実を図るために、プログラムの内容や活用の工夫を検討し作成した。

### 2 令和6年度の取組

令和5年度の研究においては、学校計画研修の質を高める方法や効率的な実施に向けたポイントを「プログラムの特徴と活用の仕方」や「研修資料の解説」に整理して掲載するなど、学校における活用や実践に有用なプログラムを作成できたと考えている。

令和5年度の研究を通して目指したことは、学校における研修の取組を充実させ、人材育成を図ることにあり、プログラムの活用を普及、促進する必要がある。

そのためには、特別支援学校の学校計画研修において、年間を通して実際に活用し、プログラムが学校現場で活用可能なものであることや、研修の内容の充実や効率化などの有効性を検証するとともに、プログラムの修正や改善を行い、普及を図る必要がある。

そこで、令和6年度は、プログラムを活用した研修の取組に焦点を当て、協力校において初任段階教員（1年次）を対象に行う学校計画研修においてプログラムを活用し、その有効性を検証することとした。

## 取組の目的と方法

### 1 本取組の目的

学校計画研修においてプログラムを活用し、学校における初任段階教員などの経験の浅い教員の資質能力の育成に向けた取組におけるプログラムの有用性とその効果を検証することを目的として行う。

### 2 方法

#### (1) 協力校の募集・選定

初任段階教員(1年次)が配置されている知的障がい特別支援学校から協力校を募集し、応募のあった学校から、所属する初任段階教員の人数等を基に検討し、北海道美唄養護学校と北海道余市養護学校しりべし学園分校の2校を協力校とした。

協力校の初任段階教員(1年次)の人数は、Table 1のとおりである。

Table 1 協力校の初任段階教員の人数

| 学校名               | 初任段階教員       |
|-------------------|--------------|
| 北海道美唄養護学校         | 3名           |
| 北海道余市養護学校しりべし学園分校 | 3名(うち1名養護教諭) |

#### (2) 協力校におけるプログラムを活用した学校計画研修の計画と実施

協力校においては、次の内容に取り組んだ。

プログラムを活用した学校計画研修の計画、実施  
 プログラムを活用した取組の成果と課題の整理  
 課題の解決に向けたプログラムの修正、改善点の検討及び特センとの協議  
 学校計画研修の計画及び実施内容等に係る情報提供

のプログラムを活用した学校計画研修の計画については、計画・報告様式1(Table 2)を用いて、協力校の研修を行う期日や研修内容を把握した。なお、本稿中の「指導教諭」は、「研修を担当する教諭」のこととする。

Table 2 計画・報告様式1(一部抜粋)

| 計画・報告様式1                               |          |                           |                                                                                  |        |
|----------------------------------------|----------|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 特別支援学校教員スタート・プログラム(試案)を活用した研修の計画及び実施報告 |          |                           |                                                                                  |        |
| 学校名( 美唄養護学校 )                          |          |                           | 記入者( ○ ○ ○ ○ )                                                                   |        |
| No                                     | 期日       | 研修内容・活用するプログラム            | 研修の方法                                                                            | 特センの対応 |
| ①                                      | 6月12日(水) | I-1 障がいの理解～「障がい」を環境から捉える～ | <input type="checkbox"/> 指導教諭が実施<br><input checked="" type="checkbox"/> 初任者のみで実施 | —      |
| ②                                      | 7月10日(水) | I-2 知的障がいの特性と基本的な対応       | <input type="checkbox"/> 指導教諭が実施<br><input checked="" type="checkbox"/> 初任者のみで実施 | 遠隔で視察  |
| ③                                      | 7月31日(水) | I-3 実態把握～知的障がい～           | <input type="checkbox"/> 指導教諭が実施<br><input checked="" type="checkbox"/> 初任者のみで実施 | 訪問     |

のプログラムを活用した取組の成果と課題の整理については、協力校が、プログラムを活用して行った研修の実施内容や研修の方法、プログラムを活用してよかった点、プログラムの意見や要望などを報告様式2（Table 3）に記入し、集約することとした。

Table 3 報告様式2（一部抜粋）

| 報告様式2                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）を活用した研修の実施報告                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 学校名（北海道余市養護学校しりべし学園分校）                                                                                                                                                                                                                 | 記入者〔指導教諭〕（○ ○ ○ ○）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 実施日時                                                                                                                                                                                                                                   | 6月28日（金） 14:50～15:35                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 指導教諭                                                                                                                                                                                                                                   | ○ ○ ○ ○                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 初任段階教員                                                                                                                                                                                                                                 | 2名（○○ ○○、○○ ○○）<br>＊期限付き教諭1名も参加 計3名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 研修内容                                                                                                                                                                                                                                   | 知的障がいの特性と基本的な対応について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 活用したプログラム                                                                                                                                                                                                                              | 【I-2】知的障がいの特性と基本的な対応                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 研修の方法                                                                                                                                                                                                                                  | 説明・演習の両方を指導教諭が実施 ○                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                     ・いずれか1つに○を付ける<br/>                     ・その他の方法の場合は、（ ）に具体を記入する                 </div>                                                                        | 説明は初任者自身で、演習は指導教諭が実施<br>→ 研修動画の視聴 あり ・ なし                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|                                                                                                                                                                                                                                        | その他の方法<br>（ ）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 実施内容<br><div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                         ・効果高めるためのポイントを踏まえて工夫した点<br/>                         ・自校の取組を踏まえて付け加えた説明や内容<br/>                         ・演習をどのように行ったか                     </div> | <ul style="list-style-type: none"> <li>研修の最初に知的障がいについてのイメージを参加者に問い、研修後のイメージに変化があるかどうかを、研修後の感想用紙を通して確かめられるようにした。</li> <li>知的障がいの特徴や困難さについて、具体的にイメージしやすいように、本校の児童生徒の実態について具体的な説明を交えながら説明を行った。</li> <li>演習は10分程度で、参加者が順番に発表する形式で行った。最後に、指導教諭の考えや実践している対応の例を紹介したり、研修をまとめたりすることで、参加者の理解を深められるようにした。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| プログラムを活用してよかった点                                                                                                                                                                                                                        | <div style="background-color: #f9f9f9; padding: 5px;">○ 指導教諭から</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修資料の知的障がいの特徴の例が分かりやすく、本校の児童生徒の実態と結び付けて理解することができていたと感じた。</li> <li>研修資料の説明内容と演習が連動しており、参加者が説明のあった内容を振り返りながら演習の中で発表するなど、取り組みやすい構成であると感じた。</li> </ul> <hr/> <div style="background-color: #f9f9f9; padding: 5px;">○ 初任段階教員から</div> （研修内容の振り返り） <ul style="list-style-type: none"> <li>視覚的支援は取り入れやすい分、意図が曖昧なまま行ってしまうことがあるため留意が必要だと感じた。</li> <li>障がいの特性に合わせた伝え方の工夫について、スライド毎に具体的に説明されていて分かりやすかった。</li> <li>演習を通して、他の人の支援方法を聞き、工夫の考え方や方法のヒントを得ることができてよかった。</li> </ul> |
| プログラムへの意見や要望                                                                                                                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて、より対話的になるような仕掛け（参加者への質問やクイズなど）をするよう促す説明書きがあるとよいと感じた。（「適宜指導教諭が設定する」と記載するなど。）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

の課題の解決に向けたプログラムの修正、改善点の検討及び特センとの協議については、特セン所員が、協力校を訪問又は遠隔で、プログラムを活用した研修の様子を視察し、実際の場面を通して、プログラムの活用状況や指導教諭による具体的な工夫を把握すると

もに、研修実施後に、指導教諭からプログラムを活用した感想や意見等について聞き取った。

また、8月に協力校2校と特センを遠隔で接続し、プログラムの活用状況や学校計画研修の取り組み方などについての情報交換や、プログラムの内容や活用の仕方についての意見交流を行った。

の学校計画研修の計画及び実施内容等に係る情報提供については、研修時にプログラムの他に使用した指導計画や学習指導案、協力校において作成した学校計画研修の計画書及び報告書などの情報提供を得た。

## 特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）の活用の成果と課題

作成したプログラムの学校計画研修における有効性について、「プログラムの特徴と活用の仕方」や指導教諭向けの「研修資料の解説」に示した活用の方法や目指す効果を踏まえ、「学校計画研修の計画段階におけるプログラムの活用」、「研修の効率的な実施」、「研修の効果を高めるための工夫」、「その他に見られた効果」の4つの点から、プログラムを活用した取組内容と、その成果と課題についての考察を以下のとおり整理する。

### 1 学校計画研修の計画段階におけるプログラムの活用

#### (1) 協力校におけるプログラムを活用した研修計画の立案

学校計画研修の計画の作成に当たって、北海道教育委員会の実施要項では、学校の実態を踏まえ、研修の時期を考慮し研修計画を作成するとともに、進捗状況を適宜確認することや、授業研究を中心に、参観、演習、協議のほか、実践に関する指導、助言、示範等を行い、内容や方法を含め全体の調和がとれたものにすることが示されている。各学校においては、教員育成指標に示される初任段階教員の資質能力の育成を図ることを念頭に置きながら、授業研究の時期を含めた研修の流れや年間の業務を見通し、学ぶ内容や研修の実施時期を検討することが求められている。

こうしたことを踏まえ、プログラムの内容（Table 4）は、初任段階教員が理解し、身に付けてほしい基本的な内容や授業研究に深く関連する内容で構成している。

また、学校計画研修の年間計画の作成において、プログラムを研修内容や時期の検討に役立てるとともに、学校計画研修の担当部署や指導教諭が学校計画研修にプログラムを活用する見通しやイメージをもち、研修を計画的に実施できるよう、「プログラムを活用した学校計画研修の例」を掲載している。

Table 4 特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）の内容

| 〔セクション〕基礎基本の理解度アップ |                 | 〔セクション〕授業力レベルアップ |                |
|--------------------|-----------------|------------------|----------------|
| - 1                | 障がいの理解          | - 1              | 授業づくりの基本       |
| - 2                | 知的障がいの特性と基本的な対応 | - 2              | 単元の指導計画        |
| - 3                | 実態把握            | - 3              | 学習評価           |
| - 4                | 自立活動の指導の基本      | - 4              | 学習指導案の作成       |
| - 5                | 個別の指導計画         | - 5              | 主体的・対話的で深い学び   |
| - 6                | 個別の教育支援計画       | - 6              | 個別最適な学びと協働的な学び |
| - 7                | 教員間の連携          |                  |                |
| - 8                | 保護者への対応         |                  |                |

協力校においては、プログラムの内容や「プログラムを活用した学校計画研修の例」を参考に、プログラムの活用を含めた学校計画研修の計画を立案した。

ア 北海道美唄養護学校におけるプログラムを活用した研修の計画の状況

北海道美唄養護学校では、〔セクション 〕基礎基本の理解度アップから6つ、〔セクション 〕授業力レベルアップから4つの内容について研修資料（スライド）を活用した研修を計画し、実施した。（Table 5）

また、学校計画研修の計画や推進体制、初任段階教員の授業研究の時期を踏まえ、6月～8月までを〔セクション 〕基礎基本の理解度アップの内容を中心に、初任段階教員3名が研修資料（スライド）や動画を活用して実施することとし、8月～10月にかけては〔セクション 〕授業力レベルアップの内容を指導教諭が説明等を行い実施するよう計画を立案した。

Table 5 美唄養護学校におけるプログラムを活用した研修の計画

| 月           | 活用したプログラム                     | 初任段階教員のみで実施 |
|-------------|-------------------------------|-------------|
| 6月          | — 1 障がいの理解～「障がい」を環境から捉える～     | ○           |
| 7月          | - 2 知的障がいの特性と基本的な対応           | ○           |
|             | - 3 実態把握～知的障がい～               | ○           |
| 8月          | - 4 自立活動の指導の基本～知的障がい～         | ○           |
|             | - 1 授業づくりの基本～1単位時間の授業の目標の明確化～ |             |
| 9月          | - 2 単元の指導計画                   |             |
| 10月         | - 3 学習評価～評価規準の設定～             |             |
| 11月         | - 4 学習指導案の作成                  |             |
| 初任段階教員の研究授業 |                               |             |
| 12月         | - 5 主体的・対話的で深い学び              |             |
| 1月          | - 5 個別の指導計画                   | ○           |
|             | - 6 個別の教育支援計画                 | ○           |

イ 北海道余市養護学校しりべし学園分校におけるプログラムを活用した研修の計画の状況

北海道余市養護学校しりべし学園分校（以下、「しりべし学園分校」という。）では、〔セクション 〕と〔セクション 〕の14の研修内容を全て取り入れて計画し、実施した。（Table 6）

しりべし学園分校においては、学校計画研修の充実を図るとともに、プログラムに掲載した例示についての妥当性の検証につながるの考えから、概ね「プログラムを活用した学校計画研修の例」と同じように研修の時期や回数を設定した。5月～7月前半は、プログラムの〔セクション 〕基礎基本の理解度アップの内容を中心に、7月後半～9月は初任段階教員の授業研究に向け、〔セクション 〕授業力レベルアップの内容を設定

し、10月以降に授業づくりの基本や個別の指導計画などについて初任段階教員が繰り返し学ぶ機会を位置付けた計画を立案した。

Table 6 しりべし学園分校におけるプログラムを活用した研修の計画

| 月           | 活用したプログラム                         | 初任段階教員のみで実施 |
|-------------|-----------------------------------|-------------|
| 5月          | - 3 実態把握～知的障がい～                   |             |
| 6月          | - 5 個別の指導計画（1回目）                  |             |
|             | - 6 個別の教育支援計画（1回目）                |             |
|             | - 8 保護者への対応                       |             |
|             | - 1 障がいの理解～「障がい」を環境から捉える～         |             |
|             | - 2 知的障がいの特性と基本的な対応               | ○           |
| 7月          | - 4 自立活動の指導の基本～知的障がい～             |             |
|             | - 7 教員間の連携                        |             |
|             | - 1 授業づくりの基本～1単位時間の授業の目標の明確化～     |             |
|             | - 2 単元の指導計画                       |             |
| 8月          | - 3 学習評価～評価規準の作成～                 |             |
| 9月          | - 4 学習指導案の作成                      |             |
|             | - 5 主体的・対話的で深い学び                  |             |
|             | - 6 個別最適な学びと協働的な学び                |             |
| 10月         | - 1 授業づくりの基本～1単位時間の授業の目標の明確化（2回目） | ○           |
|             | - 2 単元の指導計画（2回目）                  | ○           |
| 初任段階教員の研究授業 |                                   |             |
| 2月          | - 6 個別の教育支援計画（2回目）                | ○           |
|             | - 5 個別の指導計画（2回目）                  | ○           |

## (2) 考察

計画段階における活用に関する協力校からの報告内容の一部を次に示す。

- ・14の研修資料が盛り込まれた、年間を見通した活用の例が示されていたので、計画の立案に役立てることができた。
- ・研修に要する時間や研修資料の分量を目安にして、初任段階教員の年間のスケジュールを踏まえて、研修の日程を設定することができた。
- ・プログラムを基に研修内容を計画することで、指導教諭や研修担当者が柔軟に検討できる余地をもちつつも、一定の水準の研修内容を担保できていると感じた。

初任段階教員（1年次）が所属する学校においては、年間を通して150時間以上の学校計画研修を計画し実施することや、年度始めに全教職員で共有すべき内容を学校計画研修で取り扱う場合があることから、年度末又は年度始めの計画の立案や、計画の検討と並行して研修を実施するなどの現状があり、研修内容の充実と効率的な計画の立案が求められる。

協力校の一方においては、初任段階教員（１年次）の配置が５年ぶりであり、学校計画研修の内容や時期などを一から検討し、計画を作成する状況であったが、学校計画研修の担当部署において、「プログラムの内容」や「プログラムを活用した学校計画研修の例」を基に研修を計画することにより、研修内容や時期の意図、見通しなどを確認し、円滑に計画の立案を進めることができた。

また、もう一方の協力校では、学校計画研修の実施に当たって、講義や協議などの研修の充実を図る必要があることが課題に挙げられていた中、プログラムを活用し、研修内容等を学校計画研修の担当部署と指導教諭が共有し計画に位置付けるなど、計画段階において研修内容の充実を図ることができた。

これらのことから、プログラムが、学校計画研修の計画段階において有用であったと言える。

## 2 研修の効率的な実施

### (1) 研修の準備や実施におけるプログラムの活用

令和５年度の研究において、指導教諭が校内で役割や業務を３つ兼務している割合は17.4％であり、その上で初任段階教員の指導教諭も担当している状況があることや、「研修及び準備の時間の確保」が大変であると感じている割合が34.8％であることが分かった。

一方で、指導教諭は、特別支援教育に関することや業務の進め方はもとより、組織の在り方、職場内の連携、仕事への姿勢等について、「初任段階教員に教えたい」と感じており、初任段階教員を育成することに対する強い使命感をもって取り組んでいることが分かった。

こうした状況を踏まえ、プログラムでは、指導教諭の準備に係る負担の軽減と研修の効果や質の向上の両立を図ることができるよう、14の内容について、詳細な説明原稿付きの研修資料（スライド）を作成し、研修のねらいや時間の目安、説明・演習のポイントをまとめた研修資料の解説と合わせて活用できるようにしている。

また、〔セクション〕基礎基本の理解度アップの内容のうち６つの研修資料（スライド）については、説明部分を初任段階教員があらかじめ学び、指導教諭との演習に臨んだり、自主的な研修を行ったりすることができるよう、動画を作成した。

協力校においては、プログラムを活用し、指導教諭が説明や演習を行う形式での研修を、美唄養護学校では教務主任や学校計画研修の担当部署の教員、教頭の４名が、しりべし学園分校では各学部の教務主任３名が、各回を分担して実施した。

研修の実施に向けては、指導教諭が、担当する内容の研修資料の解説と説明原稿付きの研修資料（スライド）を事前に確認することを共通事項として行った。また、説明原稿に具体的な説明や例示などの補足をしたり、説明スライドを加えたりするなどの内容の工夫や、説明部分について動画を活用するなどの方法の工夫については、指導教諭の裁量で行った。

協力校においては、プログラムを活用した研修の初回の前に、説明原稿付きの研修資料（スライド）をデータ又は印刷して初任段階教員に配付するとともに、動画の閲覧方法を

確認し、指導教諭による研修の実施時のみならず、初任段階教員のみで行う研修や振り返りにおいても活用できるようにした。

## (2) 考察

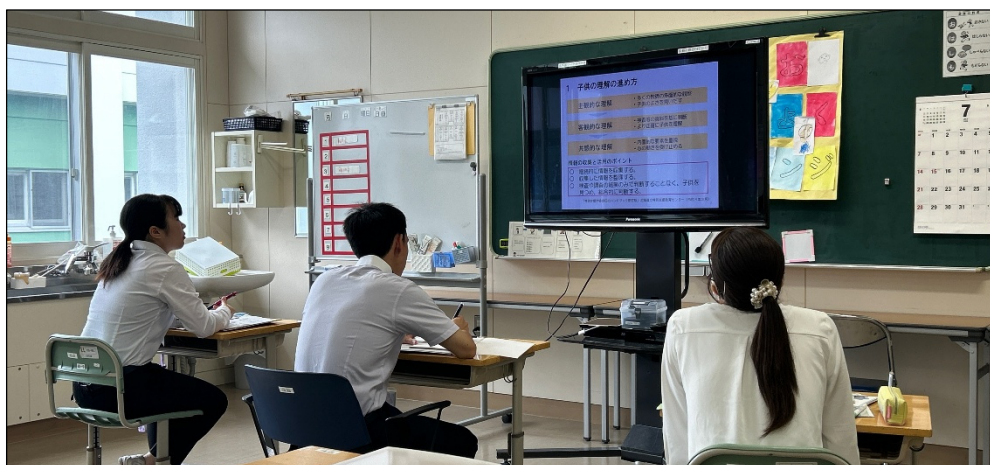
研修の効率的な実施に関する協力校からの報告内容の一部を次に示す。

- ・研修資料（スライド）に、演習の進め方の説明や問いの例が示されており、事前に確認したことで研修を円滑に進めることができた。
- ・プログラムを基に、研修の進め方や資料（スライド）と解説の確認、演習資料（指導略案・個別の指導計画など）の事前連絡を行うことで、研修を効率的に実施することができた。
- ・研修資料（スライド）の説明原稿や演習の進め方が整理されており、予定時間内に研修を実施できることが多かったが、演習は目安の時間よりも長くなる場合があった。

報告内容にも見られるように、指導教諭が研修資料（スライド）や研修資料の解説を事前に確認してから研修を実施するため、プログラムを活用することで指導教諭等による研修の内容の検討や説明資料の作成などの準備の軽減につながったことが分かる。

また、プログラムを活用した指導教諭からは、研修後の聞き取りにおいて、研修資料（スライド）における研修のねらいや内容が明確であることや、説明と演習を組み合わせで構成され、説明部分が10分～20分となっていることから、研修を進めやすいとの意見も挙げられた。

協力校では、初任段階教員のみによる研修も設定し、説明原稿付きの研修資料（スライド）や動画を活用して実施した。準備から、動画の視聴、演習までを自分たちで進め、取り組むなど、プログラムを活用することにより、初任段階教員が自主的に研修できることを確認できた。また、こうした初任段階教員による自主的な研修を計画、実施することにより、指導教諭との時間調整を軽減できたと考える。



初任段階教員のみで研修を行っている様子

協力校では、研修を児童生徒の下校後の時間帯に設定し、40分～1時間で行っていた。令和5年度の研究における研修の時間の確保が大変であるとの回答や協力校における取組を踏まえると、授業の準備や会議、児童生徒や保護者への対応などの業務が多忙な中で、指導教諭と初任段階教員の複数の教員の時間調整を行い、確保した限られた時間で効率的に研修を行うために、プログラムを活用することは有用であったと考える。

プログラムの改善点について、協力校において、研修資料（スライド）に沿って説明と演習を行ったところ、演習部分に時間を要し、研修資料の解説に示した時間の目安を大幅に超えた内容があった。また、初任段階教員による自主的な研修において、演習部分の進行が滞る場合があったことから、一部の研修資料（スライド）や解説について、時間の目安の示し方や演習の例示、説明原稿における補足などの修正を検討する必要があると考える。

協力校の聞き取りから、学校計画研修全体の計画とプログラムを基に、学校計画研修の担当部署から研修を担当する指導教諭を依頼することにより、研修の分担を円滑に行うことができたことが分かった。

一方で、協力校においては、いずれも主に教務主任が研修での指導教諭を務めていたが、業務の平準化や学校計画研修のより組織的な運用に向け、学校計画研修における指導や助言を業務の状況等も踏まえて柔軟に分担できるようにすることが課題に挙げられた。

プログラムを活用することにより、担当する研修の内容や準備の見通しがもちやすく、効率的な研修の実施が可能であることが協力校の実際取組を通して確認できたことから、学校計画研修の業務が一部の教員の負担となっている場合には、Fig. 1 に示したように、プログラムを研修の分担に活用することが考えられる。

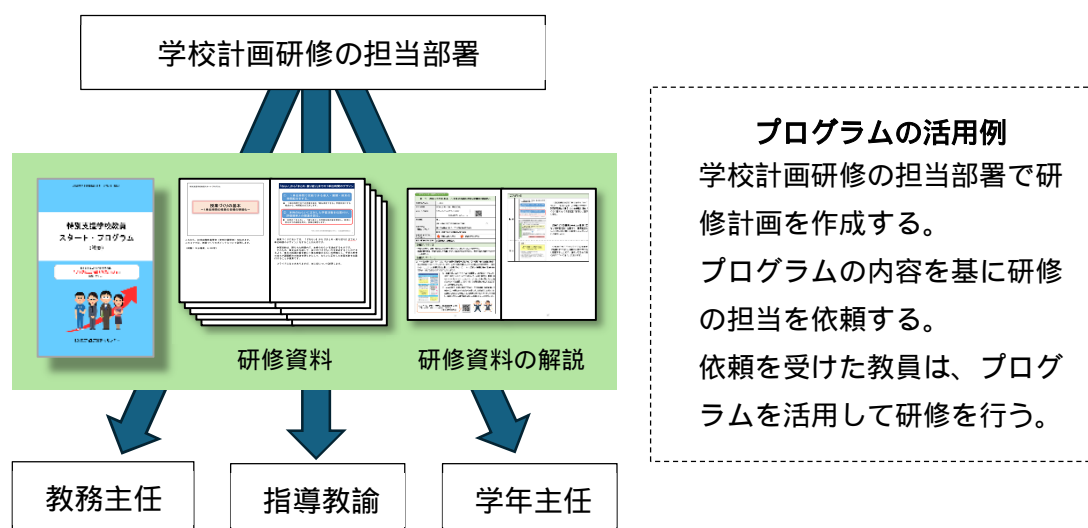


Fig. 1 学校計画研修の分担イメージ

### 3 研修の効果を高めるための工夫

#### (1) プログラムの活用による研修の内容やプロセスの充実

令和5年度の研究において、特別支援学校教員として目指す姿に向け、先輩教員の姿を見たりアドバイスをもらったりすることなどの実務における直接的、実地的な関わりを通して学ぼうと考えている初任段階教員の割合は、1年次教員は60.3%、2年次教員は39.0%であった。

また、初任段階教員（2年次）の「学校計画研修（1年次）で取り組んでよかったこと」についての回答からは、「研究授業」が最も多く、次いで「周囲との意見交流」や「先輩教員との対話」などの意見交流や対話がよかったという意見が25.4%と多かった。

こうした初任段階教員のアンケート調査の結果を踏まえ、プログラムにおいては、指導教諭の経験を踏まえた具体的な説明や他者の考えに目を向けたり思考を広げたりする工夫を促し、研修の効果を高められるようにするため、「プログラムの特徴と活用の仕方」に「対話を通した学び」や「先輩教員の経験談や実践」を明記している。

更に、これらの工夫の具体や取り入れるタイミングなどのイメージや見通しをもち、研修場面において実践しやすくするために、研修資料（スライド）の説明原稿に、指導教諭による問いや説明の例を示している。

#### ア 対話を通した学びの工夫

協力校の取組では、例えば、「 - 5 主体的・対話的で深い学び」を活用した研修で、指導教諭の「生徒の主体的な学びに向けて、どのような工夫が考えられますか」といった発問に対して、初任段階教員は自身が作成した単元計画を振り返り、授業で工夫することや今後に向けた改善点などを考えたり、他の初任段階教員と話し合ったりしていた。

初任段階教員は、研修の最初の説明で学んだことと自分の実践を関連づけたり、他の教員の考え方を聞いたり、自分の考えを言語化したりすることで更に学びが深まっていく様子が見られた。



プログラムの演習に取り組む様子

**演習**

単元の指導計画を基に、「主体的な学び」や「対話的な学び」、「深い学び」の視点から考えられる工夫を考えてみましょう！

- ・単元を見通して、主体的に学んでほしいと考える授業や子供の姿にはどのようなものがあるか。
- ・そのために、単元や授業において、どのような工夫が考えられるか。
- ・主体的な学びや対話的な学びの視点から考えた工夫は、単元の目標（又は授業の目標）の達成に向けたものとなっているか。

研修資料（スライド）  
セクション - 5 から

このほか、演習シートを活用し、研修の冒頭と終末で指導教諭が質問して初任段階教員が考えを記述し、自己の変容に気付かせる工夫や、初任段階教員による動画を活用した研修において、視聴後に、担当する生徒の様子を順番に発表し、研修資料の内容を振

り取り理解を深めるなど、対話を通して他者参照ができるプロセスが位置付けられていた。

#### イ 先輩教員の経験談や実践を加えた説明の工夫

協力校では、「 - 4 自立活動の指導の基本」の研修において、指導教諭が過去に受講した研修資料の一部を研修資料（スライド）に追加し、補足の説明を行っていた。

また、説明した内容について、初任段階教員が実際の授業をイメージして理解できるよう、「 - 1 授業づくりの基本」の研修において、指導教諭が行った授業を具体例にして説明を加えていた。

このようにして、初任段階教員の理解が更に深まるよう、各学校の実情や初任段階教員の学びたい内容に応じて、プログラムの内容に関連した先輩教員による経験談や実践などを補足して説明する取組が見られた。



指導教諭が資料を追加して説明する様子

## (2) 考察

研修の効果を高めるための工夫に関する協力校からの報告内容の一部を次に示す。なお、記載の4つ目は、初任段階教員による振り返りから示している。

- ・スライドの説明の内容と演習が連動しており、演習で「受講者への問いの例」を手掛かりに対話することにより、初任段階教員が説明内容を振り返ったり、自分の考えを述べたりしながら思考を整理するなどの学びを促すことができた。
- ・研修資料があることで、その内容を基にして指導教諭に質問したり、初任段階教員同士で聞いたりすることができた。
- ・経験談や実践を加えて説明することによって初任段階教員の理解を深められるよう進めることができた。
- ・ベテランの先生方から、取組事例を基にした具体的な説明を聞いて、実際の指導場面と結び付けて学ぶことができた。

実際の研修場面においては、報告内容に示したほか、初任段階教員のみによる演習の中で、研修資料（スライド）に沿って個人ワークを行った後、初任段階教員が自身の考えを順番に発表し、日常の業務を振り返りながら研修内容の理解を深めるなどの対話による学びが随所に見られた。

研修資料（スライド）の説明原稿の中に、指導教諭による経験についての説明を促す記載があることにより、研修場面でその記載を確認して説明を加えたり、事前に追加するスライドや説明を用意しておいたりするなど、実際の研修における工夫につながった。

また、指導教諭の経験談や在籍している児童生徒を例にした説明場面では、初任段階教員がうなずきながら聞き、意欲的に発言する姿が見られるなど、指導教諭の説明の工夫により、初任段階教員の学ぶ意欲の高まりや思考の深まりなどの効果が見られた。

これらのことから、プログラムに記載した研修の効果を高めるための工夫を確認し、研修資料（スライド）の説明原稿に示している指導教諭による問いや説明の例を参考にして研修を実施することが、初任段階教員同士や指導教諭等との対話や、指導教諭による経験談などの説明の工夫を促進し、研修のプロセスを充実するために有用であったと言える。

#### 4 その他に見られた効果

##### (1) 授業研究の充実

協力校では、授業研究に向け、プログラムの〔セクション〕授業力レベルアップの研修を進める中で、指導教諭を担当した教務主任等において学習指導案の様式や作成の仕方が話題となり、単元の目標や評価規準の欄や記入の仕方などの見直しが行われた。

また、初任段階教員（1年次）が、単元や1単位時間の目標の明確化や評価規準の作成などのプログラムを活用した研修で学んだことを生かして学習指導案を作成し、授業研究を行ったことにより、研究授業の事前・事後の検討において、共に授業を担当する教員や学習指導案の検討に関わる教員による協議が活発化した。

協議において話題となった内容は、単元の目標や評価規準の設定や、指導計画の記載などである。協力校のいずれにおいても、初任段階教員が生活単元学習の授業研究を行ったことから、各教科等を合わせた指導における単元の目標や学習評価について質疑や協議が行われ、教育課程や授業づくりの基本の理解と共有が図られた。

学校計画研修を通して、授業づくりの基本となる事柄や考え方を確認し、学校の取組の改善につなげたことや、経験を問わず幅広い教員の学びとなったことは、協力校の教員の課題意識や向上心の高さの実行力による成果であり、プログラムの活用には、こうした取組のきっかけや後押しの効果があったと考える。

##### (2) 指導教諭等の学び

協力校の指導教諭からは、「経験のある先生方を対象とした研修でも良い内容だった。」や「研修資料（スライド）を学校の全教員を対象とした校内研修で活用したい。」などという声が聞かれた。本プログラムは、特別支援教育を担う教員の資質能力の向上を図る取組の充実に向け、特別支援学校において初任段階教員（1年次）を対象に行う学校計画研修で活用することを目的に作成したものであるが、教員の日常的な業務や授業づくりに関わる基本であり大切な内容であることから、初任段階教員に限らず、全教員を対象とした校内研修でも活用できると考える。

また、指導教諭の聞き取りからは、「研修を担当して、研修資料（スライド）を読んだり、研修の準備をしたりすることで自分の授業を振り返るきっかけになった。」「指導案や単元計画の考え方などは自分の学びにもなった。」などの声もあったことから、プログラムの活用は指導教諭の学びにも効果的であったと言える。

## 今後の取組の展望

### 1 研修方法の更なる工夫

のプログラム（試案）の活用の成果と課題の1において述べたように、プログラムを活用した研修は、自校の指導教諭及び初任段階教員での実施に限定するものではなく、研修資料を共通のコンテンツとして、初任段階教員の配置が1名の学校同士が遠隔（Zoom等）で接続して研修を行うなど、複数の学校が連携して実施することが考えられる。

例えば、Fig. 2のように、複数の学校を遠隔で接続し、A学校、B学校、C学校の初任段階教員に対してA学校の指導教諭が資料の説明や演習の進行を行う方法が考えられる。各学校がそれぞれで研修を行う場合に比べ、指導教諭2名分の効率化を図ることができる。また、自校での実施の場合、演習や協議は、指導教諭と初任段階教員との対話が想定されるが、初任段階教員同士での対話を通した学びが可能となる。

プログラムの特徴や活用の仕方にも示しているように、初任段階教員同士や他校の教員等との対話を取り入れることにより、学んだ実感を得られるようにするとともに、理解の深まりや技能の習得につなげることが大切である。こうした研修の積み重ねが、初任段階教員の研修に対する意欲の向上に加え、日常の職務に向けたモチベーションの高まりにもつながることが考えられることから、特に、初任段階教員（1年次）が1名の学校や少人数の学校においては、こうした工夫を参考に研修の充実を図ることが考えられる。

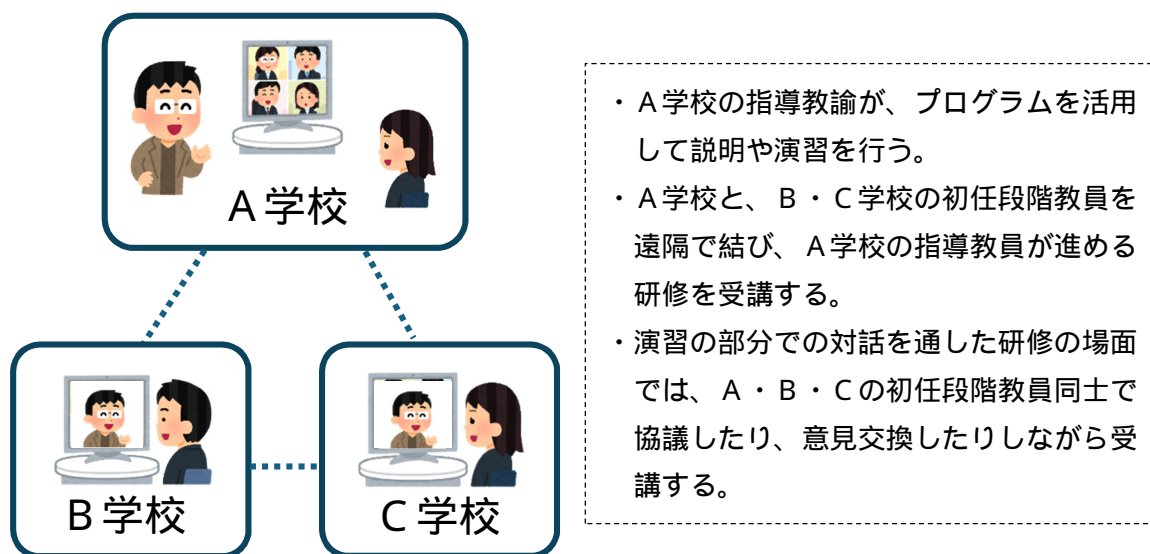


Fig. 2 プログラムを活用し複数の学校が合同で研修を実施する例

### 2 教員の資質能力の育成に向けたプログラムの活用の促進

協力校における取組を通して、プログラムが学校現場で活用可能なものであり、プログラムの活用が学校計画研修の内容の充実や効率化に有効であることを検証することができた。

特別支援教育を担う教員の育成は喫緊の課題であり、令和5年度のプログラムの作成及び本年度のプログラムの活用とその効果を検証する取組は、学校における人材育成の取組の充実に寄与するものであると考える。

各学校における教員の資質能力の育成に向けては、新たな教師の学びの姿の実現や研修観の転換に向けた動きを踏まえながら、各学校における蓄積を生かし、効率化と研修の充実を図ることが求められる。

本プログラムは、本年度の取組における活用にとどまらず、プログラムを活用している学校が増え、研修方法の工夫が様々に行われることが期待される。また、研修資料を各学校において作成しプログラムに加えて活用したり、国などの研修資料や動画コンテンツなどと併せて活用したりするなど、活用の仕方は各学校や教員の発想により広がるものとする。

本プログラムの活用を、学校計画研修をはじめとした学校における人材育成の取組を充実するための方策や手掛かりとし、教員の資質能力の向上を図ることを期待する。

協力校

北海道美唄養護学校

北海道余市養護学校しりべし学園分校

## 抄 録

|                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                |                                            |       |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------------|-------|--|
| 分類番号                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 主<br>題<br>名                    | 「特別支援学校における経験の浅い教員の資質能力の育成<br>に向けた研究」【追補版】 |       |  |
| 1 - 0 1                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                |                                            |       |  |
| 北海道立特別支援教育センター                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                | 令和7年3月                                     | 16ページ |  |
| <p>本取組は、研究紀要第35号において作成した「特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）」を活用した取組を行い、学校における初任段階教員などの経験の浅い教員の資質能力の育成に向けた取組における効果を検証することを目的として行った。</p> <p>令和5年度を取組を踏まえ、学校における研修の取組を充実させ、人材育成を図ることを目指し、プログラムの活用を普及、促進するために、特別支援学校の学校計画研修においてプログラムを年間を通して実際に活用し、研修の内容の充実や効率化などの具体的な取組とその効果などから、プログラムを活用することの有効性を検証する。</p> |                                |                                            |       |  |
| キーワード                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 特別支援学校 初任段階教員 学校計画研修 校内研修 人材育成 |                                            |       |  |

## 研究紀要 第35号【追補版】

令和7年（2025年）3月発行

発行者 北海道立特別支援教育センター

所 長 柏 木 拓 也

〒064-0944

北海道札幌市中央区円山西町2丁目1番1号

T E L （011）612 - 6211（代表）

F A X （011）612 - 6213

U R L <http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/>